

生涯学習フェスタ2014

～家族のきずな・地域のつながり～



「家族のきずな」エッセイ集



公益財団法人 **モロロジー研究所**

共 催：麗澤大学／麗澤中学・高等学校／麗澤幼稚園

後 援：千葉県／千葉県教育委員会／柏市／柏市教育委員会／我孫子市教育委員会／鎌ヶ谷市教育委員会／
流山市教育委員会／野田市教育委員会／松戸市教育委員会／柏市PTA連絡協議会／株式会社ジェイコムイースト 東関東局



「人づくり」による「国づくり」を モラロジー教育では「3つの心」を育てます。

「思いやりの心」

相手の立場に立って考えることのできる思いやりの心は、人の喜びや悲しみ・痛みへの共感性をはぐみます。そして、自分を反省したり、相手を許す謙虚さや周囲に奉仕する深いやさしさを育てます。

「感謝の心」

大自然の恵み、また家庭や国の恩恵などに対する感謝の心は、自分の命はもちろん、あらゆる命を大切に尊厳性をはぐみます。そして、恩返しをしたり社会や世界に貢献していく勇気を育てます。

「自立の心」

夢や志に向かって、主体性を持って生きようとする自立の心は、家庭人、社会人、また国民としての責任感や使命感をはぐみます。そして、地域や国際社会に目を向けていくたくましさを育てます。

モラロジーとは

モラロジー (Morality) は、「道徳」を表すモラル (moral) と「学」を表すロジー (logy) からなる学問名です。日本はもとより世界の倫理道徳の研究をはじめ、人間、社会、自然のあらゆる領域を考察し、人間がよりよく生きるための指針を探求し提示することを目的とした総合人間学です。

公益財団法人モラロジー研究所

公益財団法人モラロジー研究所は、倫理道徳の研究と社会教育を推進する研究教育団体です。大正15 (1926) 年に法学博士・廣池千九郎が創立して以来、一貫して人間性・道徳性を育てる研究・教育・出版事業を展開し、生涯を通じて学びを深める「生涯教育」とともに、親から子へ、子から孫へと世代を重ねて道徳性を育む「累代教育」を提唱しています。

「家族のきずな」エッセイ集 目 次

2 ごあいさつ 公益財団法人モラロジー研究所 理事長 廣池 幹堂

3 講 評 選考委員長
千葉県東葛飾地方教育者モラロジー研究会
会長 川原 容一
最終選考委員

4 入賞・入選作品一覧

6 ご応募いただいた小学校

7 入賞作品

15 入選作品



ごあいさつ

公益財団法人モラロジー研究所 理事長

廣池 幹堂 ひろ いけ もと たか

モラロジー研究所では、本年十月五日（日）に、「生涯学習フェスタ二〇一四」家族のきずな・地域のつながり」を開催いたします。この催しは、平成八年に始まり、今年で十九回目を迎えます。

今年は、千葉県、千葉県教育委員会、柏市、東葛六市（柏、我孫子、鎌ヶ谷、流山、野田、松戸）の各教育委員会、ならびに柏市PTA連絡協議会、ジェイコムイースト東関東局のご後援をいただき、四十以上の各団体が参加されて、家族で楽しめる体験コーナーやアトラクションなどが行われます。ご参加いただく各団体、協賛企業をはじめとする関係各位に、あらためて厚く御礼申し上げます。この「生涯学習フェスタ」を通して家族のきずなと地域のつながりが深まり、生涯学習社会の進展に多少なりとも貢献できればと願っております。

「家族のきずな」エッセイの募集は、今年で十二回目となります。東葛六市の教育委員会の協力のもと、各学校に応募を呼びかけましたところ、昨年を上回る七千

二百二十九編ものエッセイが寄せられました。本冊子には、その中から審査によって選ばれた入賞（千葉県知事賞ほか）八編、および入選四十一編を掲載しております。小学四年生から六年生までの児童より寄せられたエッセイは、家族との心の交流や感謝の心、祖先を思う心、いのちの大切さなどが素直に表現されていて、どれもすばらしく感動的なものばかりです。ご応募いただいた児童、募集にご協力いただいた先生方、ならびに原稿の審査にご尽力を賜りました選考委員の皆様にも、厚く御礼を申し上げます。

家庭は教育の原点です。家族・親・祖先とのつながりを感じるとき、子供たちは生きる力と喜びを得ることができます。このエッセイ募集事業と、本冊子に掲載された心温まる作品が、少しでも「家族のきずな」を深め、家庭、学校、地域社会が一体となって子供たちの心を育てる契機となれば、まことに幸いに存じます。

講 評

選考委員長
千葉県東葛飾地方教育者モラロジー研究会 会長

かわはら
川原 容一 よういち

今、世界に目を向けるとアフリカ、ウクライナ、中東で戦争や疫病により否応なく家族が引き裂かれている状況が報道されています。国内では親の虐待や育児放棄により子供がなくなったり自殺したりするニュースが世間を騒がしています。平和な日本のはずなのに、このような事件が起きるたびに悲しい思いがします。

しかし、今回寄せられたエッセイには様々な家族愛の姿が描かれていました。エッセイは筆者の家族への思いや家族からの愛に応えようとする筆者の心づかいにあふれていました。このような時代だからこそ、家族がきずなの存在に気づき、互いの思いを感じながら、思いやりに感謝し、一人ひとりが何をしたらよいのかを考えることは大切なことと思います。人の優しさを感じ自己肯定感を持つ子は、人のために行動することに喜びを感じることができます。生きる力を育む「家族のきずな」について、私たちはあらためて見直していきたいと思います。

最後に、「家族のきずな」エッセイをお寄せいただいた皆さんと応募に際して支援して下さったご家族、先生方の皆様に感謝申し上げます。皆さんのエッセイが家族のよさを再認識させ、日本中、世界中の子供たちの幸せを育むことを期待しています。

最 終 選 考 委 員

選考委員長	川原 容一	千葉県東葛飾地方教育者モラロジー研究会 会長
選 考 委 員	梅津 健志	柏市教育委員会 学校教育部指導課統括リーダー
	中田 敦子	柏市教育委員会 学校教育部指導課 主事
	田牧 徹	柏市小中学校校長会 会長
	平岩 光現	(株)ジェイコムイースト 東関東局 局長
	笠間 芳幸	麗澤中学高等学校教諭
	永治 真樹	モラロジー研究所広報局長

入賞・入選作品一覧



千葉県知事賞

家族の明るさ 柏市立田中小学校 6年 岡田 渚 佐



柏市長賞

ポカポカのおまじない 柏市立酒井根小学校 4年 飯田 恵



柏市教育長賞

『えがお』のきずな 柏市立中原小学校 4年 柴田 哲 平



柏市小中学校校長会会長賞

私のおうえんだん 流山市立小山小学校 4年 都 築 菜々子



柏市PTA連絡協議会賞

妹 柏市立十余二小学校 4年 山 末 航 希



ジェイコム賞

みんながちょっとずつみんなを 柏市立光ヶ丘小学校 4年 堀 桂 人



麗澤大学賞

わたしの名前 柏市立土小学校 4年 川 村 美 琴



モラロジー研究所賞

優しい祖父 柏市立酒井根東小学校 6年 八 木 優 貴

入 選

★掲載順＝氏名50音順

大切なライバル	柏市立柏第二小学校 6年	阿 部 和 佳
前を向いて	柏市立旭小学校 5年	伊 坂 百 萌
お誕生日はだれのもの？	柏市立柏の葉小学校 5年	石 岡 希 音
がんばれ！お姉ちゃん	松戸市立横須賀小学校 5年	石 山 伶 奈

母の一言	柏市立風早北部小学校 6年	磯 村 優 斗
ちくわの中に見えたもの	柏市立柏第一小学校 6年	出 井 南
魔法のスコーン	柏市立柏第一小学校 6年	王 悦 佳
かけがえのない家族	松戸市立松ヶ丘小学校 5年	大 塚 天 裕
お母さんと私の時間	柏市立柏第五小学校 4年	岡 安 花
ベジタブルライフは家族のきずな	柏市立高田小学校 5年	小 倉 陽 葵
私のそばにいてくれる家族	柏市立酒井根小学校 5年	折 居 志 乃
わたしと妹の命の物語	柏市立柏第五小学校 4年	川 口 ひめな
おじいちゃんからうけつたこと	柏市立柏第四小学校 6年	木 村 愛 菜
大雪で知った父の思い	柏市立柏第二小学校 5年	光 崎 日 菜
母の優しいぬくもり	柏市立酒井根小学校 6年	小 林 美 羽
「特別」なんかじゃない	柏市立柏第二小学校 6年	小 柳 星 栞
感しゃ	柏市立柏第二小学校 5年	近 藤 瑞 姫
魔法の手	柏市立柏第二小学校 6年	佐 藤 綾 香
障害者家族	柏市立光ヶ丘小学校 5年	佐 藤 あゆり
感謝の気持ち	流山市立江戸川台小学校 6年	嶋 田 あ み
数十秒の幸せ	柏市立柏第五小学校 6年	島 田 陸 利
ぼくがなやんでいたとき…	柏市立松葉第二小学校 4年	鈴 木 友 翔
私のお兄ちゃん	柏市立柏第七小学校 6年	高 野 明 海
ありがとう、お母さん	柏市立松葉第二小学校 4年	高 橋 英 豊
輝いて見えたお父さん	柏市立柏の葉小学校 6年	瀧 脇 楓 乃
命の尊さ	柏市立富勢西小学校 6年	武 田 貴
おじいちゃんの心配	柏市立風早北部小学校 4年	田 代 千 歩
一番大切な手紙	柏市立富勢小学校 6年	當 麻 日 菜
やさしい私のお母さん	松戸市立栗ヶ沢小学校 5年	野 村 彩 花
「家族」のおかげで	柏市立風早北部小学校 6年	元 勇 人
祖父との思い出	松戸市立牧野原小学校 6年	藤 井 美野子
大好きな弟	柏市立中原小学校 5年	古 谷 涼 寧
縦の糸と横の糸	柏市立光ヶ丘小学校 4年	保 坂 京 佑
ありがとう	柏市立旭小学校 4年	正 藤 美 海
イチニ、イチニ	柏市立土南部小学校 6年	松 浦 陽 香
お母さん、大好き！	柏市立高田小学校 4年	松 村 天 心
おばあちゃんの家でコンサート	柏市立柏第一小学校 5年	三 浦 那妙里
雪がふった日	柏市立中原小学校 6年	満 遼太郎
すれちがうと気付くこと	鎌ヶ谷市立五本松小学校 6年	元 廣 愛 佳
ささえてくれる家族	野田市立岩木小学校 5年	山 本 乃々香
私の味方	柏市立柏第一小学校 5年	米 村 あすみ



ご応募いただいた小学校



★50音順

柏市 (38校)

柏市立 旭小学校
旭東小学校
大津ヶ丘第一小学校
大津ヶ丘第二小学校
風早南部小学校
風早北部小学校
柏第一小学校
柏第二小学校
柏第三小学校
柏第四小学校
柏第五小学校
柏第六小学校
柏第七小学校
柏の葉小学校
酒井根小学校
酒井根西小学校
酒井根東小学校
逆井小学校
高田小学校
高柳小学校
田中小学校
田中北小学校
土小学校
土南部小学校
手賀西小学校
手賀東小学校
富勢小学校
富勢西小学校
富勢東小学校
十余二小学校
中原小学校
名戸ヶ谷小学校

柏市立

西原小学校
光ヶ丘小学校
増尾西小学校
松葉第一小学校
松葉第二小学校
豊小学校

我孫子市 (6校)

我孫子市立 我孫子第二小学校
我孫子第三小学校
高野山小学校
並木小学校
根戸小学校
布佐小学校

鎌ヶ谷市 (5校)

鎌ヶ谷市立 五本松小学校
中部小学校
南部小学校
初富小学校
道野辺小学校

流山市 (4校)

流山市立 江戸川台小学校
小山小学校
長崎小学校
東深井小学校

野田市 (9校)

野田市立 岩木小学校
川間小学校
木間ヶ瀬小学校
清水台小学校
東部小学校

野田市立 南部小学校
北部小学校
柳沢小学校
山崎小学校

松戸市 (21校)

松戸市立 旭町小学校
大橋小学校
金ヶ作小学校
河原塚小学校
栗ヶ沢小学校
幸谷小学校
古ヶ崎小学校
寒風台小学校
新松戸西小学校
常盤平第三小学校
根木内小学校
八ヶ崎第二小学校
北部小学校
牧野原小学校
松ヶ丘小学校
松飛台小学校
松飛台第二小学校
馬橋小学校
横須賀小学校
梨香台小学校
和名ヶ谷小学校

エッセイ応募総数 7,229編

応募小学校総数 83校

千葉県知事賞

家族の明るさ

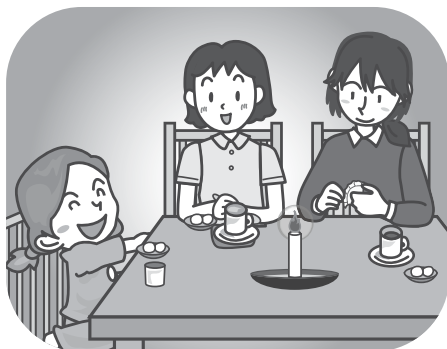
柏市立田中小学校 六年 岡田 渚佐おかだ なぎさ

わたしの家には、「ろうそくタイム」という時間があります。「ろうそくタイム」とは、宿題や明日の準備が早く終わったときに部屋の電気を消し、ろうそくに火をつけてお茶を飲んだり、おかしを食べたりしながら、いろいろな話をする時間です。わたしとお母さんと妹でやることが多いです。

「ろうそくタイム」をやりたいときは、宿題を早く終わらせます。妹もわたしも、話したいことがたくさん浮かんできて、たくさんしゃべってしまいます。

話す内容は、クラスであったことや部活であったことなど、いつもと変わりないけれど、自然と心が温かくなるところが、わたしは好きです。いやなことがあっても、つかれていても、家族がろうそくの火みたい

に、わたしの気持ちをパッと明るくしてくれます。わたしは、こんな「ろうそくタイム」が大好きです。これからも、大好きな「ろうそくタイム」をずっと続けていきたいです。



柏市長賞

ポカポカのおまじない

柏市立酒井根小学校 四年

飯田 恵 いいためぐみ

小さいころから体が弱くて、いつも私は入院ばかりしていました。三年生の時もはいえんになってしまい、四十度以上も熱が出てせきも止まらなくて、すごく苦しくてつらかったです。そんな時いつも助けてくれたのが家族です。

熱が出て頭がいたい時、お母さんの手がおでこにさわると、つめたくてとても気持ちがよくて、心がポカポカしました。ご飯が食べられない時は、とくせいのおじやを作ってくれます。それを食べると体もポカポカしてきて、元気になるしました。

お母さんは具合が悪く、もうすぐ手じゅつをするために入院してしまいます。すごくさみしいけれど、今度は私がお母さんをたくさんポカポカさせてあげたいので、お母さんに心配をかけないように、おばあちゃんのお手伝いをしたり、自分の事はきちんとできるようにがんばりたいです。

お兄ちゃんとお姉ちゃんとポカポカのおまじないをたくさんして、お母さんが早く元気になりますように。



柏市教育長賞

『えがお』のきずな

柏市立中原小学校 四年

柴田 哲平
しば た てっぺい

多くの両親はよく「哲平は小さいころからいつもニコニコして、えがおいっぱいの子だ。」と言います。

たしかに、友だちのお母さんや近所のおばさんたちからも「てっちゃんのえがおは最高だね!」とよく言われます。

これは多分、ぼくが二才の時に病気で死んでしまったおじいちゃんがそういう人だったからだと思います。

ぼくはまだ二才だったので、おじいちゃんの記おくはほとんどないのに、いつもニコニコ楽しそうにわらっているえがおだけは、ふしぎなぐらいはつきりとおぼえているのです。

死んでしまう何日か前まで、病院のベッドにぼくを乗せて「かわいいなあ…かわいいなあ。」と言いながら、病人とは思えないえがおで、ぼくをかわいがってくれていたと、お母さんが教えてくれました。

ぼくのたったひとつの、おじいちゃんのえがおの記おくが、今でもぼくとおじいちゃんを結びつけている「きずな」なのではないかいつも思っています。



柏市小中学校校長会会長賞

私のおうえんだん

流山市立小山小学校 四年 都築 菜々子

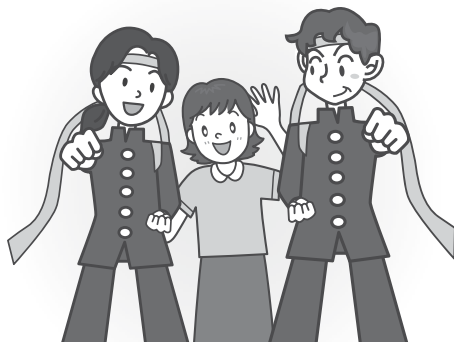
毎日のように、さつ人事けんのニュースをテレビでみる。

お母さんに、「私があんな悪い事したら、一生、口きかないでしょ?」と聞くと、お母さんは、「なっちゃんが悪い事したら、それはお父さんとお母さんにもせきにんがあるんだよ。だからいっしょにあやまらないといけないね。でもどんな事があっても、お父さんとお母さんはなっちゃんのみかただし、なっちゃんを守っていくよ。」と泣きそうな顔で言った。

何があっても私のみかたなんだと言われ、うれしかった。でもお母さんの顔を見たら、お父さんとお母さんが悲しむ事は絶対にしたくないと思った。

私が運動会でおうえんだんをしたように、お父さんとお母さんは、私が生まれてからずっと私のおうえんだんだ。だから私はいつもがんばれる。勝っても負けても、おうえんしてくれる人がいるからだ。

おうえんだんを悲しませたくない。ずっと元気で、えがおでおうえんしてもらいたい。



柏市PTA連絡協議会賞

妹

柏市立十余二小学校 四年 山末 航希 やま すえ こう

ぼくには妹がいる。外ではおとなしいクセに、家では本当に生意気だ。そんな妹が三才になったばかりの時、ショッピングモールで迷子になった事がある。

ぼくとお母さんの三人で買い物中、気づいたらいなかったのだ。というか、本当はぼくは妹がおかし売場で立ちどまった事に気づいていた。〃迷子になっちゃうぞ。〃と、少し思ったけれど、お母さんが今日はぼくの手をひいていることがうれしくてだまっていた。そうしたら本当に迷子になってしまったんだ。

妹がいけない事に気づいたお母さんは、必死にさがし回っている。ぼくのせいかも、と頭が真っ白になり、とにかく無事にみつかりますように、と祈った。

その時、館内放送が入ったんだ。「山末あき子様、みゆう様がサービスカウンターでお待ちです。」って。

〃なんだよ。自分でお母さんの名前まで言えているんじゃないか!〃と思ったとたん、ほっとして涙が出てきた。

ぼくにとって本気でかわいい妹なんだと気づいた時だった。



ジェイコム賞

みんながちよつとずつみんなを

柏市立光ヶ丘小学校 四年

堀 桂人
ほり かいと

弟がちよつとうらやましく思える時もある。だって、いつも色々な事を家族みんなに手伝ってもらったり、甘えたり。

弟はまだ小さいし、自へいしうで上手く気持ちを伝えられないなどのハンディがあるから仕方がない。もっと弟が生きやすくなるように家族みんなが支えているんだ。もちろん、ぼくだってその一員。

でも考えると、弟も家族みんなの事を支えていると思う。ぼくがないているとすぐによつてきて「なみだをふいて。」と、自分のハンカチで少し無理やりだけどふいてくれるし、弟のえ顔は、みんなをえ顔や元気にする力があるからだ。

変なダジャレでみんなをわらわせるお父さんは、仕事をがんばって家族を支えている。おいしいご飯を家族のために作ったり、ぼくの話をきいてくれるお母さん。ケンカもするけど、勉強やピアノを教えてくれ、たよりになるお姉ちゃん。だれか一人が家族みんなを支えているのではないし、だれか一人だけが支えられているのではないと気が付いた。



麗澤大学賞

わたしの名前

柏市立土小学校 四年 川村 美琴 かわむら みこと

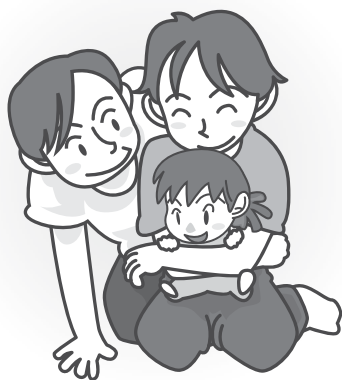
わたしの名前は「みこと」です。これは、「命」という意味から名付けられたものです。

わたしは、生まれる時、母のおなかの中で弱ってしまい、きん急手じゅつになりました。万が一の時は、わたしの命より母の命をゆう先するといふ書るいに、父はなみだをながしながらサインをしたそうです。幸いぶじに生まれ、両親は命の重みを実感し、このよび名を付けたそうです。

それからずっとわたしはとても元気です。ですが、友だちとケンカをしたり、親にしかられたり、努力してもうまくいかない時、落ちこむこともあります。

そんな時、母が、「あなたは、みこと。元気で生きていだけでありがたいの。」と言ってくれます。すると、気持ちがスツと軽くなります。

わたしの下には、妹と弟がいます。三回もおなかを切って生んでくれた母と、いつも一生けんめいはたらいてくれる父に、元気であることを感しやしながら家族なかよくすごしています。



モラロジー研究所賞

優しい祖父

柏市立酒井根東小学校 六年 八木 優貴

二十五年前に、祖母は病気で亡くなってしまったそうだ。なので、祖父は料理も洗濯も家の事は何でも出来る。そして読書が趣味の祖父は、色々な事をよく知っている物知りだ。

そんな祖父は、ぼくが四年生になるまで保育園や学校、習い事の送り迎えを何も言わずにやってくれた。雨の日も嵐の日も雪の日もいつも同じように来てくれて、そして自分の家に帰って行った。

祖父もあと少しで八十歳になる。「何か欲しい物がある？」そして、「やりたい事はあるか？」と聞いたら、ぼくと山に登りたいと言うので、本当は映画を観たりゲームをしたりするのが好きなぼくだが、とりあえず一緒に山に登ってみた。

山の頂上の景色はきれいで感動した。この気持ちはいまよく言葉に出来ない。きっと祖父は、ぼくの知らない素敵な事をたくさん知っているにちがいない。ぼくはまた祖父とどこかに出掛けたい。祖父はきっとまたゲームより、テレビより、映画よりすばらしい何かをぼくに教えてくれるはずだ。



大切なライバル

柏市立柏第二小学校 六年 阿部 和佳

私には双子の妹がいます。双子だからっていつも比べられます。勉強のこと、運動のことなど妹とよく比べられます。それが私は本当に嫌でした。なんで双子だからって比べられなければいけないんだとずっと思っていました。

ある時、妹が私よりなわとびが上手になったことに気がつきました。私は、その時とても悔しかったです。私は妹を抜かそうと、ひまさえあれば練習することになりました。そして一週間ぐらいたった時、私は妹に追いついたのです。

その日の夜、私はあることに気付きました。私が上手になったのは、妹が出来るようになり、がんばろうと思ったからだ。双子という立場だからこそ、きそい合いがなければならないのだ。そして悔しいと思えるのだと気づきました。

今では、世界にたった一人の妹で、なくてはならない大切なライバルです。

そして、妹と双子であって本当に良かったと思います。

前を向いて

柏市立旭小学校 五年 伊坂 百萌

私は生まれつき骨が弱い病気です。まだ、だれも治せない難しい病気だそうです。

二年生のある日、鉄ぼうから落ちて、背骨の一部がつぶれてしまいました。救急車で運ばれた病院では、長い間ずっとねているだけの生活でした。

その間、母は私に付きそって、一日中、私の世話をしてくれました。父は、仕事と家事で疲れていても、必ず私の顔を見に来てくれました。兄は、病院のきまりで病とうに入ることができませんでした。ケガが、いつも手紙で私をばげましてくれました。ケガをした時はとても悲しかったけれど、家族のおかげで、私は元気になりました。

この病気のために、学校でもできないことがあったり、「これからもケガが多いのかなあ。」と心配になったりすることもあります。大好きな家族と一緒になら、きっと私は大丈夫です。これからも、元気に前向きに、むねをはっていこうと思います。

お誕生日はだれのもの？

柏市立柏の葉小学校 五年 石岡 希音 いしおか ね

私の家族は、三人家族です。パパは、おつかいがとても下手。ママは、家族のリーダー的な存在。私は、どちらかというとママに似ていて、ママのようになりたいと思っています。

ある年の私の誕生日のこと。買い物の手ানাパパが、ケーキとお花を、私には多すぎる量を買ってきました。

私とママは、またパパがうっかり分量を間違えた、いつものようにあきれました。

そうしたら、パパが言ったのです。

「違うんだよ……。パパはね、誕生日というのは、生まれてきた人が元気で迎えられたことをお祝いすると同時に、その人を産んでくれたママに感謝する日でもある。」と語っているんだよ。」と言いました。それを聞いた私とママは、その通りだと思いました。

それ以来、我が家の誕生日は、生まれた人と産んだ人をお祝いするようになりました。

がんばれ！お姉ちゃん

松戸市立横須賀小学校 五年 石山 怜奈 いしやま れい

私の姉は受験生です。だから今まで以上に私に文句をいいます。そしてすぐケンカになってしまします。その時、「もうヤダ、顔も見たくない。」と言います。そうになってしまった時もあります。

けれど私は、姉の事を何も分かっていませんでした。ある夜、私が起こると一階に明かりが見えたのです。

「何だろう？」と思って下に行くと、そこには姉の姿がありました。一人ですつと勉強していました。それを見て思いました。「色々なひどい事を言っていた自分は、何も分かっていなかったな……。」って。そんな私が情けなく思えてきました。その日から私は、全力で姉を応援しようと思いました。

姉は、一日中勉強をがんばっています。だから家族みんなががんばっている姉を応援し、「来年の受験に受かりますように。」と、心の底から願っています。

「がんばれ！お姉ちゃん。」

母の一言

柏市立風早北部小学校 六年 磯村 優斗^{いそむら ゆうと}

ぼくは、いつも母に助けられています。特に助けられたと感じるときは、母がある言葉を言うときです。

その一言とは、「わたしは、いつも優斗の味方だからね。」です。

他の人には、わからないけれど、ぼくにとっては、大切な一言。特に学校生活がいやになったとき、友だちにいやな事を言われてなやんだときにこの言葉を聞くと、学校がいやだとか、なやみなどが全部吹きとんで、がんばろうと思います。

ひどいときは、もう自分なんていらんじゃないか、と思うときもあります。家族には見せないけれど、かくれて泣いているときもあります。そんなとき、あの母の言葉を思い出し、家族の泣き顔を見たくない、がんばって生きていこうと思い、立ち直ります。

そんなぼくを支えてくれる母が大好きです。

ちくわの中に見えたもの

柏市立柏第一小学校 六年 出井 南^{いでい みなみ}

去年の十一月に、九十七歳のひいおばあちゃんが亡くなったとき、母が私に教えてくれた事がある。

「ママの炊き込みご飯には、何でちくわが入っているかわかる？」母が突拍子もなく私に聞いた。ももごしていると続けざまに、「おばあちゃんが教えてくれたからよ。だからおばあちゃんの味なの。」私はびっくりした。だって何でちくわがいつも入っているか不思議に思っていたからだ。

「どうして入れるようになったの？」

「戦後の食料不足でどうしたら美味しい物が作れるか、工夫したらいいわよ。」

私は、ひいおばあちゃんと遊んだり、話したりした記憶があまりないけれど、これからは家の炊き込みご飯のちくわを見るたびに、ひいおばあちゃんの事をいつも思い出していくのだらうと思う。そして、私がお母さんになったころ、この味のご飯を作っているにちがいない。

私から未来へ、家族を通じて色々な事が伝えられて生きていくんだなと感じました。

魔法のスコーン

柏市立柏第一小学校 六年 王悦佳^{おう ぐさ}

「魔法のスコーン」。これは、私がお母さんの特製スコーンにつけた名前です。これには理由があります。なぜなら、どんなにプンプン怒っていても、このスコーンを食べていると、ほおがゆるんでいき、最後には、満面の笑みになってしまうからです。

そんな私の大好きなスコーンを、お母さんはいろんな時に作ってくれます。土日、祝日。

私が学校からつかれて帰ってくると、仕事の合間をぬって作ってくれた焼きたてスコーンが、机の上に『食べてね』という紙とともに置いてあることがあります。そんな時は、スコーンを食べてから宿題をやります。土日は、お母さんの魔法のスコーンを食べながら、家族だんらんをします。みんなニコニコしあわせそうに学校のことや仕事の話を話し、笑いあいます。

私はこんな「魔法のスコーン」で、私たち家族にしあわせの笑顔をくれるお母さんに感謝します。

お母さん、ありがとう。これからも私たちにしあわせの笑顔をください。

かけがえのない家族

松戸市立松ヶ丘小学校 五年 大塚天裕^{おおつか あゆ}

私が一年生の時のことです。スキーで右足を骨折し、一ヶ月間学校に通うことができませんでした。トイレや食事も一人ではできず、全て母に助けてもらう毎日でした。特に夜は、いたみがはげしく眠れない日々が続きました。そんな時母はずっと起きていて、手をにぎってくれていました。

姉は、私を上げますために折り紙で大きな花を作ってくれ、「足がなおったら、またいっしょにたくさんあそぼうね。」と手紙を書いてくれました。

父はいつも私をだきかかえて病院につれて行ってくれました。

家族みんなが、私を支えてくれて骨折をのりこえることができました。自分を思っで大切にしてくれる人があることは、大きな心の支えになるといふことをこの経験で学びました。私のことをいつも支えてくれます。そんな家族はとても大切でかけがえのないものであり、一番大好きです。今までありがとう。

お母さんと私の時間

柏市立柏第五小学校 四年 おかやす はな 岡安 花

私は、天国にいるお母さんのことを思いだしました。私は大のお母さん好きで、毎日お母さんといました。勉強しているときもいっしょ。ごはんを食べているときもいっしょ。遊んでいるときもいっしょ。でも私は、毎日お母さんをこまらせていました。弟が生まれるというときも、私は、

「なんで男の子なの。女の子がほしかった。」

と言ってお母さんをこまらせていました。

これだけお母さんをこまらせたのに、お母さんは、「いつも花ちゃんはいらいね。」

と言ってくれました。

なんでなのか私は考えました。そして私はきびきびしました。私はお母さんにとってかけがえのないものなんだと。

私は、お母さんがいなくなってしまうてからきびきました。いつもは近くにいてあたりまえだけれど、いなくなってしまうととてもさびしいということ。だから、近くにいる人のことをもっと大切にしたいと、あらためて思いました。

ベジタブルライフは家族のきずな

柏市立高田小学校 五年 おぐら ひなた 小倉 陽葵

わが家の家族のきずなは野菜作りです。私の家では、毎年いろいろな種類の野菜をプランターで作っています。

私が野菜作りが家族のきずなと思った理由は、家族みんなで育てているので、家族の気持ちを一つにしてくれるからです。

まず、どんな野菜を作るかみんなで考えます。栽培の中心はお父さんです。お父さんが土づくりや種まき、苗の植えつけ、肥料を主に担当し、お母さんが毎日の水やりや、とれた野菜の料理をし、私が収穫と料理の手伝いをします。一人ずつの役割があると、みんなで作っている感じがします。

たくさんできたなら、近所のお友だちを誘って一緒に収穫したり、おすそ分けすることもあります。自分たちで作ったとれたての野菜のおいしさは、スーパーで売っているどんな野菜もかないません。おいしい野菜を家族みんなで食べると、とても幸せな気持ちになります。

野菜作りはわが家の大切なきずなです。

私のそばにいてくれる家族

柏市立酒井根小学校 五年 折居^{おりい} 志乃^{しの}

私は、生まれたときから、耳が聞こえません。けれど、お母さんやお父さんやおばちゃんは、耳が聞こえなくても育ててくれています。すごく、感謝しています。私は、耳が聞こえなくて、まわりにむしされたと思ったこともあったけれど、それを救ってくれたのは、やっぱり家族でした。家族のあたたかさや大切さを、教えてくれました。

水泳などは、家族が「大丈夫、やればできる。」と教えてくれました。耳が聞こえなくて悲しいときも家族がなぐさめてくれました。

私は、耳が聞こえないのでほちよう器というものを耳につけています。なぐさめてくれたときは、すごくあたたかい家族だと思いました。みんなは、ほちよう器をつけていないのに、耳が聞こえなくて自分だけつけることを思い出すと、すごくシヨックをうけて自分をきずつけてしまいます。でも家族がいるので、そんなことはすぐわすれてしまいます。私に家族があることで幸せです。

わたしと妹の命の物語

柏市立柏第五小学校 四年 川口^{かわぐち} ひめな

これは、わたしの命の物語です。家にあるアルバムを開くと、わたしと妹の赤ちゃんのころの写真は、どれもとう明な箱の中に入っていて、両手には点てきをしていて、むねや足には何本もの線がつけられていて、それがきかいとつながっています。

お母さんに聞いてみたら、わたしと妹は、お母さんのおなかにいたころから、ふたごとくゆうの病気で、生まれたときの体重が千六百グラムととても小さかったそうです。

生まれてきてからも、三ヶ月入院していました。お父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃんは、全員でわたしと妹が元気に生きられるように、遠くはなれた病院に、れいとうしたお母さんのおっぱいをリレーのように毎日とどけてくれたそうです。

わたしと妹は、今年九才になりました。おたん生日にはいつも「生まれてきてくれて、ありがとう。」と、家族みんながおいわいしてくれます。みんながささえてくれたわたしの大切な命を、これから大切にしていきたいです。

おじいちゃんからうけついだこと

柏市立柏第四小学校 六年 木村 愛菜 きむら あいな

今年の四月二日の朝、お母さんが、

「今から、実家の福岡に行くよ。」

と言ってきました。私は、

「どうして?」

と聞き返したら、お母さんの目からなみだが出てきていました。そしてお母さんが、

「おじいちゃんが死んじゃったの。」

と言いました。私は頭が真っ白になりました。つい最近、福岡に帰ったばかりで、おじいちゃんは元気でした。

すぐ空港に行って飛行機に乗りました。いつもは飛行機に乗っていると、たいくつになってしまふのに、その日はなぜか早く感じました。おそう式などがすんで、おじいちゃんの家をかたづけに行くところ、この前行った時には気づかなかった事がありました。それは、柱に線と名前と日付が書いてあったのです。おじいちゃんはみんなが成長しているのがうれしくて、身長を測っていたのです。今では、私の家でおじいちゃんの喜びをうけついでいます。

大雪で知った父の思い

柏市立柏第二小学校 五年 光崎 日菜 こうざき ひな

日本列島を二週続けて大雪がおそった今年の冬。二月八日は、都心で二十七センチメートルの積雪が観測された日でした。

私はその日、都心で行われたイベントに父といっしょに行きました。帰りは大雪の影響で常磐線は運転が見合わせとなっていました。運転再開を待つ間、父は母と連絡をとり、ホテルを探したり近くのホテルに空き状況を確認したりと、寒い中いろいろしてくれました。運転再開の情報がかり、駅に向かい満員の電車に乗ったのは十一時頃でした。電車はなかなか発車せず、私はだんだんねむくなってきました。父は新聞を広げて眠れるスペースを作ってくれました。家についたのは夜が明けた頃でした。

いつもは口うるさい父が、その日一日ほとんど眠らずに私を支えてくれました。はげましたり、「寒くないか。」と心配ばかりしていました。母にも「かわいそうだ。」とメールで何度も知らせて来たそうです。父に色々言われるのは嫌だけど、父の愛を感じ胸が熱くなりました。

母の優しいぬくもり

柏市立酒井根小学校 六年 小林 美羽 こばやし みう

これは、三年生のある日のことだった。それまで私は、一、二、三年生とずっと母にあまりあまえてこなかった。学校でいやな事があると、ねる時に部屋で、こっそりひっそりと泣いているだけだった。でも、母の前では心配をかけたくなかったので、笑顔でいたり、母の家事を進んで手伝ったりした。三年生の時、家に帰った瞬間に母の前で泣いてしまった。その時、母に自分の気持ちを思いきって言ってみた。

「もっと、いっぱいあまえたい…。」と。

そうしたら母は涙目になりながら、

「あまえたい時には、がまんしなくて好きなだけあまえてきていいんだよ。」

と、優しくほほえみながら言ってくれた。

私は母に思いつきだきついた。その時、いつも私は母にあまえてはいけない存在だとばかり思っていたが、こんな私だって母にあまえていいんだと思った。私は母のぬくもりと、ほっとしたことでもまた泣いた。その時だ。私が母のぬくもりを一番感じたのは…。

「特別」なんかじゃない

柏市立柏第二小学校 六年 小柳 星葉 こやなぎ ほのか

私のお母さんは生まれつき足にしようがいがあります。でも、いつも料理を作ってくれたり、いっしょに買い物をしたり…。おこるとものすごくこわいけれど、とてもやさしいです。

車イスで外に出ると、みんながこちらを見てきます。多分、「車イスだから、目がいつてしまうんだ。」とあなたたちは思うかもしれません。そのせいでお母さんがきずついているのは、とてもつらいです。でも、そのおかげで、私は特別なことを学べます。それは、「車イスでも特別じゃない。人間なんだよ。」ということなんです。

それを言うとお母さんは、少しうれしそうにほほえんでくれます。その顔が私は大好きです。いつも変な目で見られるのはいやだけれど、そのおかげで学ぶこともある。そう教えてくれるのはやっぱりいつもお母さんです。今だから言えます。

「ママ、いつもがんばってくれてありがとう。これからもう仲良くしてね。大好きだよ。」

感しや

柏市立柏第二小学校 五年 近藤 瑞姫 こんどう みずき

私は「二分の一成人式」という家族の大切さを知るき会がありました。その時は、そんなことも知らず、大変な式だと思っていました。家族の大切さを知ったのは、「二分の一成人式」の後半に、母からいただいた手紙を読む所からです。『十歳の記念日』を歌っている時に、初めて歌詞の意味がわかりました。そう思っていると泣いてしまつて歌をうまく歌えませんでした。

後でしっかり手紙を読むと、こんなにも家族は自分のことを大切に思ってくれているんだと初めて知りました。その時は、なみだがとまりませんでした。こんなにも思ってくれているんだと思うとすごく幸せなように感じます。母と父のおかげで「感しや」という言葉を知りました。

これからは、「感しや」をわすれず、ありがとうという気持ちを持って生活していきたいです。友だちなどにも感しやをして「感しや」の意味をもっと知りたいと思いました。

魔法の手

柏市立柏第二小学校 六年 佐藤 綾香 さとう あやか

お母さんの手は「魔法の手」。私はお母さんの手が大好きです。

私がかぜをひいた時、お母さんは一生けん命に看病してくれる。その時おながいたくて、何も食べられなかった。でも、お母さんのあたたかくてやわらかい包みこむような「魔法の手」でおなかをなでてもらったら、自然といたみがやわらいだ気がした。

その二日後、私のかぜがうつったのか、妹が熱を出した。妹もおながいたくて食事ができなかった。その時も、「魔法の手」が登場し、妹のおなかをなでた。妹は「ちよつといたくなかった。」とうれしそうに言った。

私はお母さんに聞いてみた。「お母さんがなでると、なんでいたくなくなるの？」お母さんは、「それはね、お母さんには子供を安心させるパワーがあるの。うちだけじゃなくて、世界のどんな国の親だつてこのパワーがあるんだよ。」と答えてくれた。私はこの時に愛されていると思つた。お母さんの愛情はすごい。

障害者家族

柏市立光ヶ丘小学校 五年 佐藤 さとう あゆり

私たちは障害者家族。でも悪い気はしない。

お母さんは耳が不自由だったりするけれど、普通の家族という感じがする。私の口元を見てくれば、学校での出来事もお話できる。それに色々な人が助けてくれたり、心配してくれる。毎日、心があたたかい。優しくされていくから、私も優しくしたくなる。他の障害者家族は、辛いのかなと気になる。家族のように思えてくる。世界中の障害者家族は私の家族だ。

今年、お父さんが障害を抱えた子供に療育をする事業を始めた。私も助けになりたい。だから毎週日曜日に参加している。そこにいる私の家族は、いろいろな障害を抱えている。上手く話せなかったり、身体が動かせなかったりしている。でもみんな楽しそうに勉強したり、お弁当パーティーをしたり、あそんだりしている。やっぱり思った通りだった。みんなも普通の家族だし、心があたたかい。これから、家族を増やして助けていきたいと思う。

感謝の気持ち

流山市立江戸川台小学校 六年 嶋田 しまた あみ

「ありがとう」

私は、このたったの五文字で出来た言葉が大好きです。そして、「感謝の気持ちを心から込めて」使うようにしています。

私は、小さい頃、『ありがとう』は、たくさん使っていた方がいい。』と思っていました。でも、ある時から、その考えが変わりました。

それは、母がいつものように、飲み物を持ってきてくれた時です。

私はあまり考えず、他の場所を見ながら、「ありがとう。」と言いました。すると母に、「あまり感謝の気持ちが伝わってこないよ。せめてきちんと目を見て言いなさい。」と言われました。そう言われた後、私は考えました。「これからは、きちんと相手の目を見て、一回一回気持ちを込めて言おう。」と。

それから、「目を見て気持ちを込めて」、「ありがとう」を言うようにしています。

これからも、相手の目を見て感謝の気持ちが伝わるように、「ありがとう」を言いたいです。

数十秒の幸せ

柏市立柏第五小学校 六年 島田 陸利しまだ りく

「ばさっ」

ぼくは勢いよくだきついた。あれ？ ふざけてだきついただけなのに、なんだか気持ちがいいような気がする。

「そろそろはなれろよ。」

父さんに言われた。でもぼくは、数十秒はりついたらまだだった。

父さんと母さんの体にだきつくと、なぜだか、ホカホカして気持ちがいよかった。ぼくの体を、なにかフワツとしたものがやさしくつつみこんでいるような感じだった。

その時は、なやみごとや考えことをすべてわすれていた。たったの数十秒なのに、ずっとずっと、守られているような気がした。幸せを感じた。

「じゃまだぞ。もうはなれろ。」

そう言われたにもかかわらず、ぼくは、にこにこしていた。

数十秒だけど、とても大きな幸せを感じた。

ぼくがなやんでいたとき…

柏市立松葉第二小学校 四年 鈴木 友翔すずき ゆうと

ぼくは三年生の時、友だちのことでなやんでいました。とても悲しくて悲しくて、だれかに話したくて、まずは、先生に話しました。そして、家族にも話しづらかったけれど、勇気を出して話しました。お父さんとお母さんはたくさん話を聞いてくれました。弟も「かわいそう。」と言って話を聞いていました。

お父さんと弟とおふろに入った時、今まで嫌だった事を全部話す事が出来て、今まで重かった気持ちが軽くなりました。学校に行くのが嫌だったけれど、がんばって行こうかなと思いました。

お母さんが朝、学校までいっしょに行ってくれたので、少しずつ自分で行けるようになりました。

ぼくは、家族がいてくれたからがんばれたので、今度はこまっている友だちがいたら、助けてあげられると思います。

ぼくは今、学校が楽しいです。授業も部活も給食も全てが楽しいです。

私のお兄ちゃん

柏市立柏第七小学校 六年 高野 明海^{たかの めいみ}

私のお兄ちゃんは、高校二年生です。でもお話はできません。苦手な音や食べ物や場所がたくさんあります。

私はずっと前から、「お兄ちゃんとお話ができたらいいなあ。」と思っていました。何度も話しかけても、私を見るだけで、言葉は返ってきません。それどころかこつちを見てくれない時もあります。私は何だか知らわれているみたいで、さびしくなることもあります。

この間、私がピアノをひいている時に、お兄ちゃんが、ピアノの曲に合わせて、体全部で、リズムをとっていることに気づきました。お兄ちゃんは、ちよつと笑いながら私のピアノをきいていました。まるで「もつとひいてよ。いい曲だね。」と言っているみたいでした。これが、お兄ちゃんの言葉なんだと思いました。体や表情でいっぱい伝えているとわかりました。

私は、お兄ちゃんと言葉にならない言葉でもつともつと仲良くなりたいと思っています。

ありがとう、お母さん

柏市立松葉第二小学校 四年 高橋 英豊^{たかはし あやと}

「手紙がほしいなあ。」

と、お母さんが言っていた。

母の日が近くなつた時、「何がほしい？」と、ぼくが聞いた時のことだ。

ぼくは、母の日に手紙を書くことに決めた。でも、決めたはずなのに、ぼくは、母の日じたいを習い事と遊びで忙しく、すっかり忘れてしまった。

妹は、母の日の前日に手紙を書いて、「明日の夜ごはんの時に、わたすんだ。」と、ねる前に教えてくれた。

しまったと思った。もう手紙を書く時間はない。けれど、ぼくは気もちだけでも伝えておきたいと思った。ぼくは、急いでお母さんの所に行き、手紙を書けなかったこと、書きたかったお母さんへの思いを言葉で伝えた。

お母さんは、「ありがとう。」と、わかってくれた。手紙は書けなかったけれど、お母さんが笑ってくれて、ぼくは、うれしかった。お母さん、いつもありがとう。

輝いて見えたお父さん

柏市立柏の葉小学校 六年 瀧脇 楓乃 たきわき かのの

私のお父さんは、今年四月二十九日(昭和の日)に、近くの大きな公園でハーフマラソンに出場することになった。ハーフは、つまり二十一キロメートルもあるということだ。

お父さんは、仕事帰り、夜おそくまで練習していた。私は、お父さんを応援していこうと決心した。練習に行くときに明るい声で「いつてらっしゃい。」と声をかけた。「ガンバレ」という意味も込めて。時には一緒に走った。二人でペースを合わせてがんばった。そして、本番当日、何百人もの人がいた。スタートした。何百人と人がいたのに、なぜか私のお父さんの走る姿だけがすごく輝いて、私の目の中にとびこんできた。

六周目。ゴールした。順位はともかく、完走してくれたことに感動した。

本当は、そんなに走ることが得意ではないお父さん。その姿を見て、私も苦手なことにチャレンジしたいと思った。これからも、がんばる家族を互いに支え合い、私は家族の絆を実感したい。

命の尊さ

柏市立富勢西小学校 六年 武田 貫 たけだ とおる

「そんな。おばあちゃんが？ 本当に？」

電車の中で告げられた話は、いくら何でも唐突過ぎて、電話の内容を疑った。

その日は、学校から帰ってきてから家でのんびりしていた。母からいきなり「おばあちゃんが倒れた。」と告げられる時までは。

祖母が入院してからもう何ヶ月たつだろう。もうよくならない。家から遠い病院なので、たくさんお見まいに行けない。時々行っても話せない状態で、ずっと目をとじてベッドに横になっている。心配していたその時だった。祖母が危ない状態になったと聞かされた。電車で向かうもおそかった。途中、電話で告げられた。祖母が亡くなったと。

僕は、死んだ祖母のとなりに座って泣いていた。でも祖母はほくに教えてくれた。人の命の尊さを。僕は、「ありがとう。」と、その言葉にすべての意味をこめて呟いた。

僕はこの悲しみを忘れたくない。だってこの悲しみは祖母が教えてくれた「命の尊さ」なのだから。

おじいちゃんの心配

柏市立風早北部小学校 四年 田代 千歩^{たしろちほ}

わたしのおじいちゃんは、去年の三月中に死んでしまいました。なぜ死んでしまったかと思うと、おじいちゃんは、一番最初に一回とうによう病にかかって入院してたからだと思います。

わたしはときどき、死んでしまったおじいちゃんのことを思うと心がいたくなります。なにか、おじいちゃんが心配になってきました。

なぜかという、去年私が三年生なのに「ランドセルは？」「ランドセル買わなくていいの？」とか、言っていたからです。だからおじいちゃんがすごく心配です。

おじいちゃんが天国で、「まごのランドセルを買ってあげられなかったな。」と思っていたら、天国でもとても心配になります。

もしそんなことを言っていたら、わたしの心の中で「もうランドセルは買ってもらってあるよ。」と、言っておきたいです。

一番大切な手紙

柏市立富勢小学校 六年 當麻 日葉^{とおまひな}

私が四年生の時、「二分の一成入式」で母さんから手紙をもらった。手紙には、昔の私のこと、どんな人になってほしいかが書いてあった。手紙をもらった時、涙目になった。

それから、この手紙を読んだら泣いて、読んだら泣いて……と、読むたびに泣いた。何回読んでも、手紙の最後には必ず泣いていた。

ある時、ふと思った。「どうしてこの手紙を読むと涙が出るのだろう。」と。そして、それはお母さんが、最初から最後まで私の事を思っていて書いていたからだということがわかった。私は、自分のことをこんなに思ってくれていると思うと、とてもうれしかった。

これから先、どんなに辛い事や悲しい事があっても、この手紙を思い出して、がんばってのりこえようと思う。

私がもらったこの手紙は、一番思い出深くて、一番大切な手紙だ。

やさしい私のお母さん

松戸市立栗ヶ沢小学校 五年 野村^{のむら}彩花^{あやか}

私のお母さんは、ようち園の先生をしています。いつもいそがしくて大変そうです。でも家に帰ってきたら家事をすべてやってくれています。「つかれた。」とは言っていない、私につかれた顔を見せずに、私の事、妹の事、父の事、そして家の事をやってくれます。

たまに私が帰ってくると、ねてしまったりしています。けれど起きて、「おかえり、彩花！」と、笑顔で言ってくれます。つかれていても笑顔でいてくれるお母さんを見ると、とても元気をもらえます。

でも、なんだか悲しいです。母の手伝いもできずに見ているだけの自分が情けないです。ここまで大きく成長できたのはお母さんのおかげだし、生まれてくることができたのもお母さんのおかげだから、すごく感謝しています。

だから、これからもっといろいろなことができるようになって母の手伝いなどをして喜んでもらいたいです。私はお母さんが、とつてもだいい好きです。

「家族」のおかげで

柏市立風早北部小学校 六年 元^{はじめ}勇人^{はやと}

ぼくは、家族のおかげで今を生きています。それを実感したのは、今から一、二年ほど前の事です。ある日の事、家族全員で、福島県にある猪苗代湖の近くのキャンプ場でキャンプをしました。

湖で泳いで遊んでいると、いきなり深くなるところに行ってしまった、少しづつしか息ができなくなっていました。近くを通ったカヌーに乗った人たちに助けを求めましたが、ただただ、こちらを見つめているだけで、いっこうに助けしてくれる様子はありません。

ぼくはたくさん水を飲んでしまい、とうとう限界が近づいてきたそのとき！ なんとお父さんが、こちらに向かってすごいスピードで泳いでくるではありませんか。

その後、ぼくは無事に救出されました。お母さんにタオルをかけてもらい、ひなたぼっこをしました。ぼくは、そのときから改めて家族の大切さを考えるようになりました。ぼくの事を大事にしてくれる家族。ぼくも、大切にしよう。

祖父との思い出

松戸市立牧野原小学校 六年 藤井 美野子 ふじい みやこ

昨年、私の祖父は、心臓の病気で亡くなりました。千葉と神戸で離れているので、年に二回くらいしか会えず、家でも寝ているほうが多かったため、会話をした記憶はほとんどありませんでした。

それまで「死」という悲しみを知らなかった私でしたが、母から祖父が亡くなったと聞いた時、自然と涙があふれて泣いてしまいました。もう声を聞いたり、目を合わせて笑ったりすることができないとわかると、心が苦しいような痛いようなつらさでいっぱいになりました。

それから私は、ほんの少ししかない祖父との思い出を、一生けんめい記憶の引出しの中から探しています。ベッドで寝ていたけれど、いつも少し笑ったような目をしていたな。「よく来たね。よくがんばってるそうやな。」とごちそうを準備してくれた。なぜか叱られた時があったけれど、そのときもやさしい目だったな。

できる限り思い出して、祖父とのつながりを大切にしまっておきたいと思います。

大好きな弟

柏市立中原小学校 五年 古谷 涼寧 ふるや すずやす

ぼくの家族は、五人です。父、母、兄、弟です。弟は、四月からぼくの小学校に入学してきました。ぼくは、あまりうれしくなく、友だちにからかわれたり、いじめられたりするんじゃないかと思いました。弟はしょう害があり、しえん学級に通っているからです。それをみんなに知られるのがいやでした。

でも学校で会うと、元気でいつもニコニコしていて、ぼくを見つけると、

「涼ちゃん、お兄ちゃん。」

と言ってニコニコして近づいてきます。

ぼくは、そんな弟が大好きでかわいく思います。いやだったのがはずかしくなり、学校の友だちに弟の事を話せるようになりました。

今は、学校で弟といっしょに外に出て遊んだりしてすごく楽しいです。家に友だちが来てもいつもニコニコしてぼくの友だちの所に行きます。友だちもぼくの弟と仲良くしてくれています。

ぼくは、弟が大好きでこれからは、やさしく大切にしていこうと思いました。

縦の糸と横の糸

柏市立光ヶ丘小学校 四年 保坂 京佑
ほ さか きょうすけ

僕には妹が二人いる。そして家には両親、おじいちゃんおばあちゃん、ひいおばあちゃんの四世代、八人で暮らしている。

妹が生まれる時に、四才だった僕は家族が増えることが不思議だった。そんな時、縦の糸と横の糸の話を聞いた。

おじいちゃん、そのまたおじいちゃんと「保坂」が受けつがれていること、それには支えてくれる友だちや先生がいること。保坂の名前を絶やすことなくいつもはんじようしていること。こうして僕まで続いた「保坂」をさらにバトンタッチする。つまり縦の糸を長くする使命が僕たち兄妹にはあるのだということだった。人が生まれるということは、こういうことなのかと初めて知った。

では横の糸はというと、縦の糸を太くするための知しきだったり、助けだったりということだった。これには「しっかり勉強しなさい。」というオチがあったけれど、こうした縦の糸と横の糸で編まれた布はじょうぶで、赤ちゃんをしっかりつつんでいた。

ありがとう

柏市立旭小学校 四年 正藤 美海
まさとう みみ

わたしは八百九十グラム、弟は九百十六グラムで生まれたそうです。わたしたちは、生まれた病院の中で、一番小さなふたごの赤ちゃんだったそうです。小さく生まれたので、他の子供よりもせい長もおそく体も弱かったそうです。

わたしは、その話を初めて聞いた時びっくりしました。自分がふつうの赤ちゃんじゃなかったことがしんじられなかったからです。もしわたしがお母さんだったらどんな気もちだろうと考えてみました。ちゃんと育つか心配、悲しい、つらい。

「たいへんだったね。」

と、わたしはお母さんに言いました。

「みうとかいりが元気に育ってくれたから、たいへんなことなんてわすれちゃったよ。それより生まれてきてくれて、ありがとう。」

と、お母さんは言いました。うれしかったです。

「こちらこそ、産んでくれてありがとう。」
と、心の中で言いました。

イチニ、イチニ

柏市立土南部小学校 六年 松浦 陽香 まつ くら はるか

遠くはなれて住んでいる、ひいおばあちゃんの和室。そこにはひいおじいちゃんの写真があり、小さなキーキが置いてあります。それは、私がピンクのフェルトで作った「なくならないキーキ」です。

一年に一度しか会えないおばあちゃんが、少しでも私のことを思い出して笑顔になってくれたらいいな、と思って作りました。

おばあちゃんはすぐ気に入ってくれて、キレイなレースをしいてくれています。

「輝くビーズとヒラヒラとした花が元気をくれるのよ。」と、おばあちゃんは言ってくれます。そして手紙には必ずキーキのことを書いてくれます。その一つ一つ丁寧に書かれた字から私は元気をもらいます。日づけの下にはメッセージが書かれています。

二〇一二年十二月十二日、イチニ、イチニ、イチニ、焦らずゆっくりがんばろう！ ほんの一行が私を上げまし、後押ししてくれます。

毎日の生活に大事なことを伝えてくれるおばあちゃんに今度は何を贈ろうかなと考え中です。

お母さん、大好き！

柏市立高田小学校 四年 松村 天心 まつ むら あまね

私の家族は三人です。お父さんは仙台に出ちように行つていません。それでも、毎日がすごく楽しいです。ある日、ささいな事でお母さんとけんかをしてしまいました。その時、少し『最悪』だとか『きらい』とかの言葉を口にしてしまいました。

その次の日の朝、お母さんが

「あまね、ちよつとおいで。」

と言いました。何かなと思ひ、行つてみると急にだきついてきました。びっくりして、

「えつ、時間ないよ。はなして。」

するとお母さんは

「はなさない。あまちゃん大好き。」

そのしゅんかん、心がふわつと空中にとんでいったような気がして、あたたかくなりました。そして、きのうの自分をうらみました。「なんで、あんなこと言つたんだろう。私、お母さんの事、大好きなのに……」

その時、私の口がかってに言っていました。

「お母さん、大好き！」

おばあちゃんの家でコンサート

柏市立柏第一小学校 五年 三浦 那妙里

私のおばあちゃんとおじいちゃんとおひいおばあちゃん、秋田県に住んでいます。

家に遊びにいけるのは、年に一回か二回です。とてもさびしそうなので、会えるのがすごく楽しみです。おばあちゃんはおもちゃや服などを買ってくれます。おじいちゃんは、自転車をおししてくれたり、遊び相手になってくれます。ひいおばあちゃんは、物知りです。しゃべり方がなまっていておもしろいです。私はこの三人に感じています。

その気持ちを伝えるために、お兄ちゃんと二人でコンサートをひらきました。私はクラリネットを、お兄ちゃんはユーフォニウムをふいて、妹は司会をしました。

曲が終わった後、ひいおばあちゃんがなみだを流していました。喜んでくれて、とてもうれしかったです。

たくさん練習して、もっと上手になって、もう一度感動してもらえるコンサートをひらきたいです。

雪がふった日

柏市立中原小学校 六年 満 遼太郎

ぼくが五年生の時、雪がふった。雨戸をあけると「わあ」と大きな声が出るほどの大雪でとてもおどろいた。ぼくのお父さんは、朝ごはんを食べると、

「さあ家の前の雪かきをするぞ。」

と着がえて準備を始めた。ぼくも弟もお母さんも準備した。

ぼくは、お父さんと車の前からほ道に積もった雪を一生けん命、一本の木と家のかべにかき集めた。とても大変で、外は寒いはずなのに汗をかいてがんばった。

ぼくは、家族みんなで二つの事を力を合わせてするこの日のような雪かきが大好きだ。弟も小さいながらもがんばっていた。

だいぶ家の前の雪がなくなった。するとお父さんは、ぼくと弟が通う小学校までの道に雪があると大変だろうと、通学路のほ道の雪をぼくたちが歩けるよう雪かきをしてくれた。

お父さんがかくよく見えた。ぼくたちのためにありがとうと思った。集めた雪で弟とお母さんとすべり台をつくったのも楽しかった。心に残る一日となった。

すれちがうと気付くこと

鎌ヶ谷市立五本松小学校 六年 元廣 もとひろ 愛佳 まなか

最近、すれちがいの日々が続いていた。父は夜まで仕事、母もおそくまで仕事、姉は部活に塾、自分も部活でいそがしかった。

家に帰っても誰もいない日が多い。自分の「ただいま。」の声が消えていく。暗い暗い家の中へ。もちろん電気を付けても誰もいない、ただ明るくなっただけ。そして私はテレビを観たりして時間を過ごす。大体そのような日が続く。別に家族なんていない、いい、そのように思っていた。

しかし、あるとき私が、

「ただいま。」と言うと、家の中から、

「おかえり。」と声が返ってきた。その時の喜びは想像よりもとても大きなものだった。

そこで私はわかった。家族っていいものだと思う。そして、いつもいっしょにいるとその家族の大切さに、私はこれからも気が付かなかったのではないかと。

それからは、家族といっしょにいる時間を大切にしている。

ささえてくれる家族

野田市立岩木小学校 五年 山本 やまもと 乃々香 ののか

私の家は、私と母と父の三人家族です。

私が、具合の悪い時、けがをした時、一番そばでささえてくれたのが、家族でした。

この前、私のアルバムを見ました。その写真一枚一枚、場所も表情も違っていて、どれ一つ同じものはありませんでした。けれど一つだけ、共通するところがありました。それは、笑顔があふれているということです。

どの写真からも、見ているだけなのに、楽しい思いが伝わってきました。きっとそれは、すぐとなりにささえてくれる家族たちがいたからです。

私が今も、こうやって笑顔でいられるのは、友だちや地域の方々や学校の先生方、そして何より家族がいるからだと思います。

いつか、私がお母さんになったら、笑顔あふれるすてきな家庭を作りあげたいです。また、自分の子供にも、私のように笑顔でいられるようにしたいです。

いつも、一番そばで、わかち合い、ささえ合う。それが、家族だと思います。

私の味方

柏市立柏第一小学校 五年 米村 あすみ よねむら

「私はお姉ちゃん。弟が最優先。」

私には二年生の弟がいる。お母さんはいつも弟につきっきり。お父さんも弟につきっきり。私はいつもほったらかしにされているような気がする。

でも、私が二年生の時、お母さんから手紙をもらった。その手紙には、このような一文があった。

「お母さんは、いつでもあすみの味方です。」

この一文が今でも心に焼きついている。だからいろいろな事に挑戦できる。

いつもみんながつきっきりの弟も、私が悲しい時は、はげましてくれる。

お父さんはどんな事でも相談にのってくれる。

こんなに味方がいることを知って、自信をあまりもてなかった私は自信がもてるようになった。

こんなに味方がいっぱいいる私も、いつかだれかの味方になれたらいいな。



募集要項

応募資格

東葛6市（柏・我孫子・鎌ケ谷・流山・野田・松戸）の小学校に通う4年生～6年生の児童。

応募方法

下のチラシの裏の原稿用紙に、400字以内におさまるように書いてください。
原稿は、皆さんが通う学校で集めます。



募集期間

平成26年5月1日(木)～6月30日(月)

賞

- ①入賞 8点 賞状と副賞
- ②入選 42点 賞状と副賞

発表・表彰

- ①平成26年10月5日(日)「生涯学習フェスタ2014」
11:00より入賞ならびに入選作品の発表と表彰式。
- ②表彰式では入賞作品の朗読と入選者を紹介。

その他

- ①応募作品は未発表で日本語のものに限ります。
- ②入賞・入選作品に関する諸権利は主催者に帰属します。
- ③入賞・入選の作品は主催者発行の『エッセイ集』、ホームページ、協賛企業でのパネル展示会にて紹介します。

「家族のきずな」エッセイ集

平成26年10月5日発行（非売品）

発 行



公益財団法人

モラロジー研究所

〒277-8654 千葉県柏市光ヶ丘2丁目1番1号

☎04-7173-3111(代)

<http://www.moralogy.jp/>



公益財団法人 **モラロジー研究所**

【協賛企業・団体】

50音順・敬称略

(有)青木金物店
青木建設(株)
青木防災(株)
(株)秋元印刷
(株)アサヒトラベルインターナショナル
(株)アステック
家の光製本梱包(株)
イオンモール柏
伊沢印刷(株)
(有)インフォサーブ
鶴川興業(株)
エス・イー・シーエレベーター(株)
SMBC日興証券(株)
(株)エヌ・ワイ・ビー
小倉建設(株)
鹿島道路(株)
柏エレベータ工業(株)
柏市民新聞社
柏商工会議所
柏モラロジー事務所
柏若手農業集団
北原電材(株)
グリーンテック(株)
グリーンホスピタリティフードサービス(株)
京葉ガス(株)
ケバフビタ
(株)コミニク出版
(有)サイトウプリント
(株)SAKAMAKI HOLDINGS
佐藤工業(株)
サンケイ総合印刷(株)
シナノ印刷(株)
(株)ジャスト 春日部支店
ジャトー(株)
(有)ショゴ パールティ・エル
(有)ジング
(株)助川工務店

Street Dining Kene's Diner
(株)スポットライフ
すみ建具店
(株)セントラルエアコン
そごう 柏店
(株)ダイキョープラザ
(株)ダイソウ
大和証券(株) 柏支店
(株)高島屋
武田建装(株)
(株)ダスキン誠実
(株)千葉銀行 南柏支店
千葉県モラロジー協議会
千葉タクシー(株)
(株)長正社
千代田鋳研(株)
(有)綱木工業
(株)ティ・シー・エス
デイリーヤマザキ 麗澤大学店
(株)東葛毎日新聞社
(株)とうこう・あい
(株)東洋食彩
トキワ建機(株)
トヨタ青木工務店(株)
長尾設備(株)
流山ボンベイ
nico nico cafe
医社団康辰会 西内クリニック
(株)ニチエイ・カーマックス
(株)日総建
(有)沼田電業
野村證券(株) 本店法人営業部
パーティーホテル千葉
(株)莫設計同人
(株)花園サービス
(株)花屋
ビーナッツサブレー本舗 富井

(協)光ヶ丘商店会
(有)光ヶ丘タクシー
(株)ビニオン
ビルテック(株)
廣池学園モラロジー事務所
(有)廣瀬造園
フィールズ南柏
(株)フーサワ
(有)フォート・マルタ
フォルトゥーナ
(有)フジクラススポーツ
富士宮やきそば よこちゃん
(株)勉強堂
(株)穂高賃貸センター
(有)松正酒店
松戸モラロジー事務所
(有)丸勝電気
(株)三上造園
(有)水代建材店
(株)みずほ銀行 柏支店
三井ショッピングパーク ららぽーと柏の葉
(株)三菱東京UFJ銀行 松戸支社
モラージュ柏
(株)モリーフ
(株)ヤカ
山崎公認会計士税理士事務所
(株)山路
ヤマト印刷(株)
(株)山屋食品千葉
ユーシーシーフーズ(株) 松戸支店
(株)侑成
(株)ユニマットライフ
横山印刷(株)
米屋(株)・なごみの米屋
リフレッシュプラザ柏
(株)れいたくサービス